

足利市における 若年性認知症施策の取り組み

～一人を多職種で支え合う学びとネットワーク～



栃木県足利市地域包括支援センターきた・なか
認知症地域支援推進員 吉田 千比呂

足利市(栃木県)



- ・人口 148,145人
- ・65歳以上人口 46,894人
(高齢化率 31.65%)(H31.4.1現在)
- ・面積 177.7平方km
- ・日常生活圏域数 11圏域
- ・産業 昔は織物のまち
現在は金属加工・プラスチック加工等
- ・名物 あしかがフラワーパーク
足利の花火 等

☆山、川、平地が合わさった地形

☆歴史と文化のまち
(足利学校、鏝阿寺、織姫神社)

素通り禁止  足利



足利市(栃木県)の認知症の社会資源

- ・地域包括支援センター 7か所(委託)
- ・認知症地域支援推進員 3名(社会福祉法人に委託)
- ・要介護認定率 16.1%
- ・要介護認定者数 7,484人

(H31.1月末時点)

(※)認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱa以上の方の数

- ・特別養護老人ホーム 19か所 855床
(地域密着型) 8か所 200床
- ・認知症疾患医療センター 2か所
- ・認知症サポート医 7名



足利市(栃木県)の認知症施策

1. 認知症を理解を深めるための普及啓発の推進

- ・認知症サポーター養成講座
(小・中高等学校や企業等でも実施)
- ・普及啓発イベント
(たかろばカフェ:認知症の講座や認知症テスト実施)
- ・認知症広報誌(オレンジだより)を年2回発行

2. 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護の提供

- ・認知症初期集中支援チームの設置
- ・介護職員を対象とした認知症対応事例検討会の開催
- ・認知症ケアパスの作成・活用
- ・月1回、各包括支援センターへの情報収集と認知症疾患 医療センターとの連携
- ・認知症予防が必要な方へ、個人宅傾聴ボランティアを派遣
ボランティアの養成も行う



足利市(栃木県)の認知症施策

3. 若年性認知症施策

- ・高齢、障がい等の専門職が集まり、定期的に勉強会を開催

4. 認知症の人の介護者への支援

- ・たかろばカフェ(認知症カフェ)を市内6か所に設置
- ・認知症介護者家族交流会開催。今年度から、家族の声を聞き、家族が認知症の事等を学べる認知症家族介護教室の開催に変更。

5. 若認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進

- ・たかろばサポーター(ボランティア)を養成し、組織化
- ・たかろばカフェ連絡会を作り、見学会や勉強会を実施
- ・見守り体制整備を地域住民と共に推進する(R1～)

自治体から求められている認知症地域支援推進員の役割は、
①認知症における地域包括ケアシステムの構築
②地域包括支援センターや認知症疾患医療センターとの連携
や地域への普及啓発(認知症カフェ等)認知症の方に対する対応を中心となって担っていく。



若年性認知症施策への取り組み経緯①

＜背景①足利市の現状...＞

☆認知症地域支援推進員として様々な認知症施策を行ってきた。

しかし、若年性認知症施策は社会資源が十分ないことなどを理由に実施できていなかった。



そんな中、1件の事例が認知症初期集中支援チームに相談がある...。

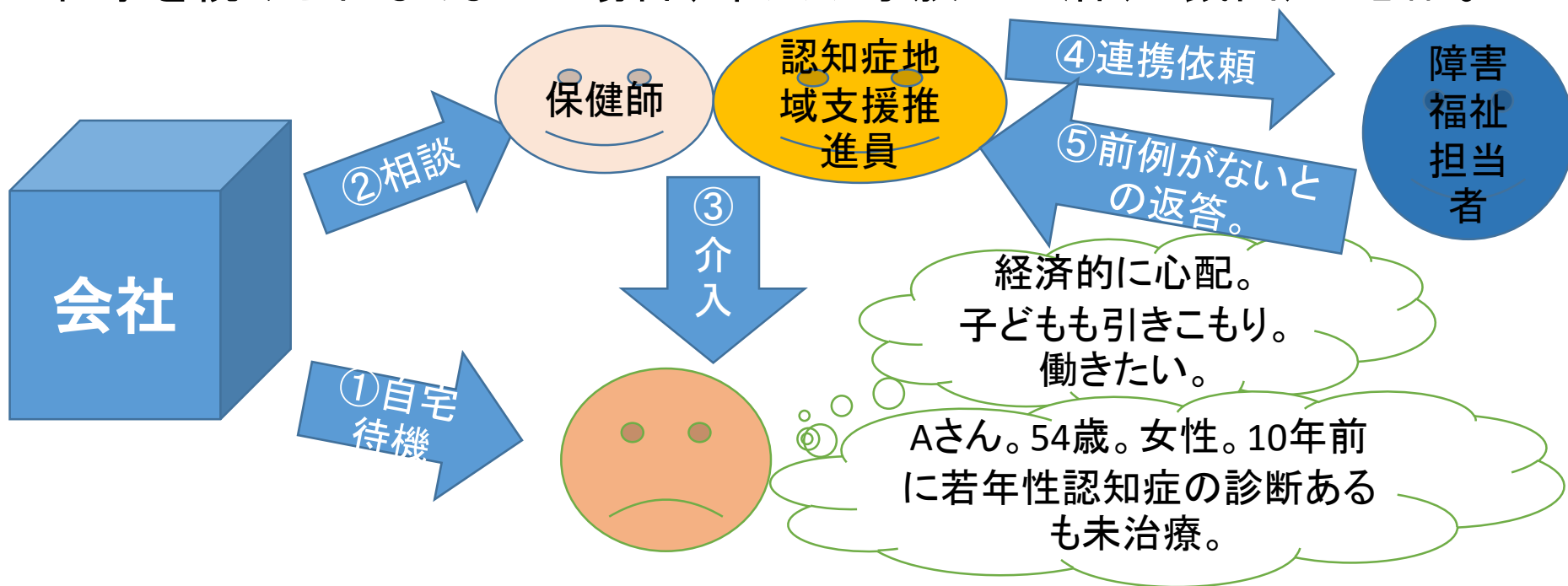
若年性認知症施策への取り組み経緯②

＜相談者＞

対象者が勤務する会社社員

＜相談内容＞

- ・認知症の診断を受けた社員が、その後受診できているのか心配
- ・仕事を続けられなくなった場合、本人や家族の生活（金銭面）が心配。



若年性認知症施策への取り組み経緯③

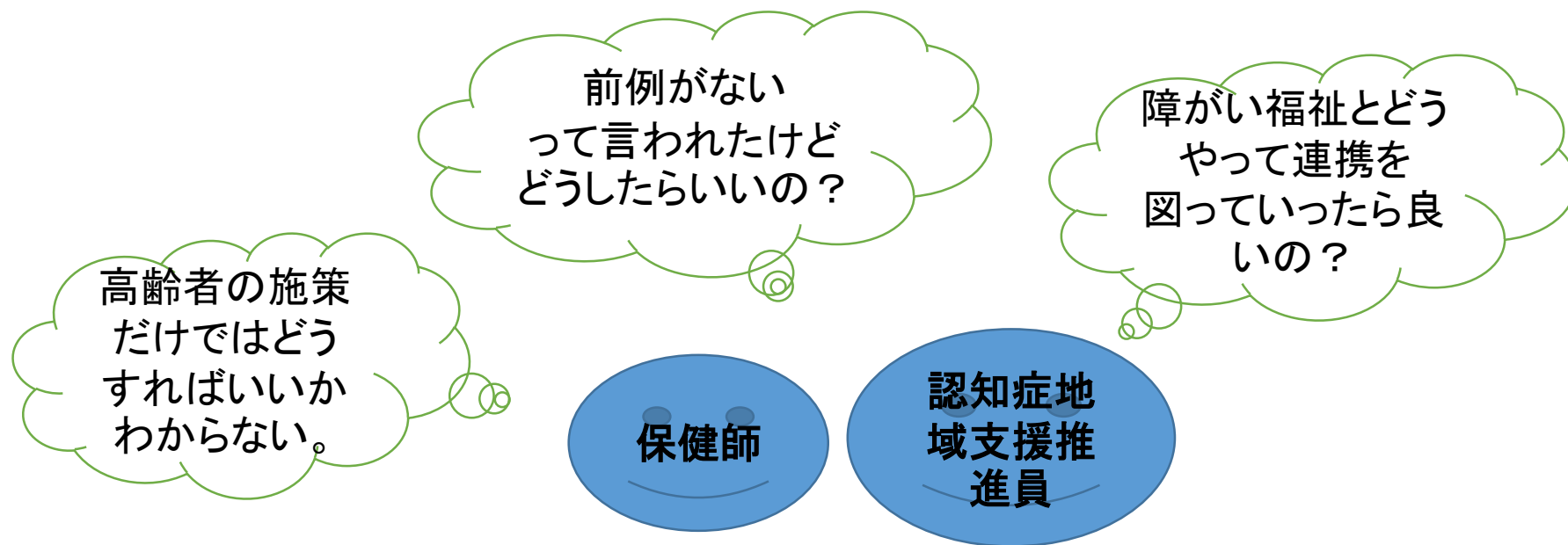
<検討課題>

○本人のニーズ

- ・ 経済的に厳しい状況
- ・ もの忘れをどうにかしたい
- ・ 働いていたい

○企業のニーズ

- ・ 経済的に安定するまでは雇用していく
- ・ 継続的な雇用は難しい
- ・ 福祉サービスにつなげて欲しい



経緯を踏まえた課題と対策

事例を通して、若年性認知症の支援には・・・

- ①就労や扶養家族の存在等経済的な問題が大きい
- ②支援者側も社会資源や経験の不足等から繋げにくい



障がい者相談支援センターに現状の課題と連携体制について相談

- ・進行が早いのでスピード勝負。障害福祉サービスを利用するのは時間がかかる。病院のMSWや行政に分かってもらう事が必要。
- ・高次脳機能障害の方がB型事業所等利用されているケースはあるが、若年性認知症の方はほとんどいないのが現状。
- ・施設は受け入れてくれるか？いつかは介護保険が必要になる。施設も病気や制度について知る必要がある。
- ・経済的な問題。

⇒(結論) 病気の理解が進むと事業所の受け入れも可能になる。
関係者を集めて若年性認知症の勉強会を開催する。

勉強会に向けた取り組みと目的

日時	内容
平成29年2月10日(金)	若年性認知症コーディネーターに相談。勉強会で何が知りたいか出席者にアンケート配布する事にする
平成29年2月24日(土)	参加申込書とアンケート用紙を50事業所に配布
平成29年3月6日(月)	参加申し込みに44名から返答あり (市役所・病院・包括・障害者事業所・相談事業所等) アンケート結果も35名から回答あり(同事業所で複数の回答ある)回収率70%
平成29年3月10日(金)	若年性認知症コーディネーターにアンケート結果を報告。勉強会の内容について相談

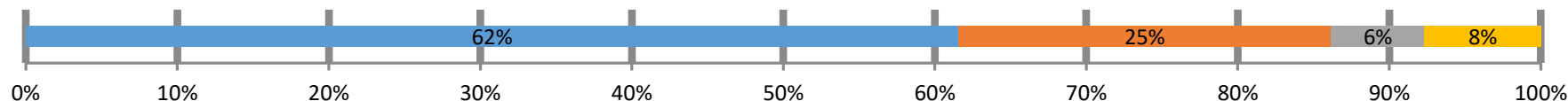
(勉強会の目的)

若年性認知症の方を円滑に支援していく為に、各関係機関がそれぞれの経験を踏まえてネットワークを構築し、当事者の方に必要な支援や社会資源を考える機会とする。

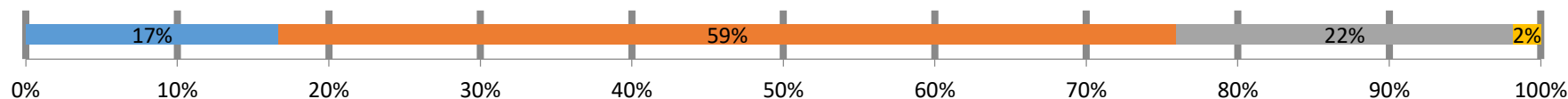
アンケート結果

- ・自由記述
- ・KJ法にてキーワードを分類

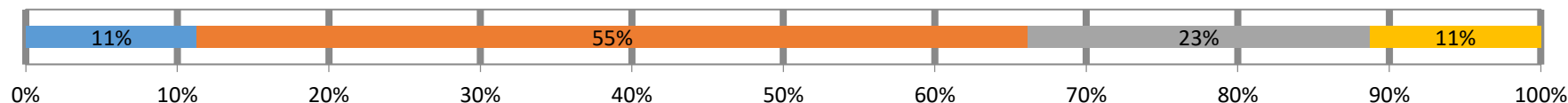
①知りたいこと



②支援時心配なこと



③現在できる支援・今後必要とされる支援



■ 病気 ■ 社会保障制度関連・生活支援 ■ 家族支援 ■ その他

- ①知りたい事として症状や進行状況についての病気に関する項目が62%と多かった
- ②支援時心配な事では就労や経済問題、接し方、福祉サービス等の社会保障制度関連・生活支援が59%であった
- ③現在できる支援や今後必要とされる支援については日中活動の場や相談窓口の必要性等の意見が多かったが、地域の理解も他項目より多く上がった

アンケート結果を項目ごとに整理

- ★
 - ・集いの場
 - ・相談窓口
 - ・ワンストップの支援
 - ・地域の理解
 - ・社会資源
 - ・具体的事例

病気

- ・進行
- ・告知
- ・症状
- ・患者数
- ・本人の病気の受容
- ・治療や薬
- ・高齢者と違う所
- ・リハビリ

社会保障制度関連 生活支援

- ・就労、生活保障
- ・経済的問題
- ・関わり方
- ・介護保険や障害福祉サービス等の各種サービス

家族支援

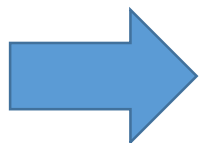
- ・家族の理解
- ・家族の負担軽減
- ・家族会の活動状況

	内容
1	病気について
2	社会保障制度関連・生活保障について
3	家族支援について
4	権利擁護について
5	必要な支援への取り組みについて(グループワーク)

H29.3／24 第一回 若年性認知勉強会を開催

(41名参加) 行政3名・認知症疾患センター4名・精神科病院12名・包括13名・障害事業所9名・相談機関3名等

- ・ 内容
- ・ ①足利市における若年性認知症施策の取り組み
- ・ ②若年性認知症コーディネーターの役割
- ・ ③認知症の疾病について(事例を交えて)



- ・参加者の知識に格差があり、知識の共有が図れなかった。
- ・スムーズに進行させる事が出来なかった。



参加者の専門分野が違
うからただ学
ぶだけの勉強
会は難しい。

高齢分野からの視点で勉強会を開催せず、各専門職からの視点で勉強会を展開する必要がある事が分かった。
そこで、行政(元気高齢課・障がい福祉課)、病院PSW、障がい者期間相談支援センター、推進員で開催前に会議を開き、振り返りと次回開催内容を検討する事とした。

第2回目～第5回目までの実施状況

	事前検討会議	実施日・内容	参加者
2	平成29年4月19日 どこに相談するのか分かれると良い。 ケースから課題を抽出し、課題ごとに勉強していくのはどうか？	平成29年6月29日 社会保障関連・生活支援について ①自立支援医療・生活支援について ②障害者年金・傷病手当について ③就労系サービス・雇用関係等機関 ④生活保護について ⑤介護保険について ⑥グループワーク(実際の事例で検討)	65名
3	平成29年7月19日 家族から話を聞き、専門職として本人や家族の思いを踏まえた支援を検討するのはどうか？	平成29年9月28日 にっこう認知症若年性認知症家族の会による講演「若年性認知症本人を支える家族としての思いや必要と思われる支援」	29名
4	平成29年10月31日 どういう時に弁護士に相談できるか？ 事例を通して弁護士の視点を話して頂き、私達との視点の違いについても学ぶ。	平成29年12月14日 権利擁護について(事例を元に) ①生活課題や考えられる対応策について検討 ②弁護士による事例から見た視点について (自己破産、成年後見等の活用)	29名
5	平成30年1月19日 実際の事例を通して、自分の所属機関や職種でどのような関わりができるか考える機会としたらどうか？	平成30年3月26日 必要な支援への取り組みについて(グループワーク) ①グループは分野別に分け、分野が違う事での専門職の視点や社会資源を勉強する機会とした。 ②今後、専門職として協力して下さる方募る(23名協力)	38名



オレンジだより

認知症になっても、
自分の家でいつまでも暮らせる

足利市



2017年9月 第9号



若年性認知症 勉強会の様子



足利市では、若年性認知症の理解や適切な支援の為に、行政をはじめ、医療関係者、介護、障がい等様々な分野の専門職で集まり定期的に勉強会を開催しています。若年性認知症の人もいつまでも自分の家で暮らせる足利をめざしていきます！！



たかろばカフェ紹介	P2~3
しっかり食べて認知症予防	P4
認知症と薬	P5
「あすてらすあしかが」の紹介	P6
認知症初期集中支援チームについて	P7
たかろばカフェ案内 他	P8

「オレンジだより」について

「認知症サポーター養成講座」を受講後サポーターの証としていただく「オレンジリング」より広報誌名をいただきました！

第1～5回勉強会を終えての参加者内訳

<主な職種>

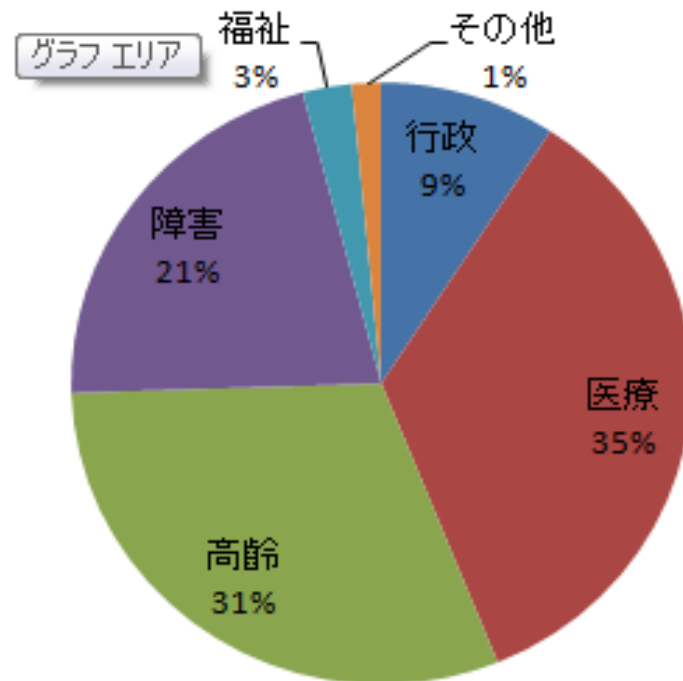
行政: 高齢、障がい、児童、社会福祉(生活保護)、保険年金所管課職員

医療: 認知症疾患医療センター、精神科病院(PSW、NS、介護福祉士)、精神科デイケア、OT、医師

障がい: 基幹型障がい者相談支援センター、地域活動支援センター、精神科GH、就労B事業所、就労移行支援事業所、障害者就業・生活支援センター

高齢: 地域包括支援センター、ケアマネ、介護施設

福祉: 社会福祉協議会、安足センター

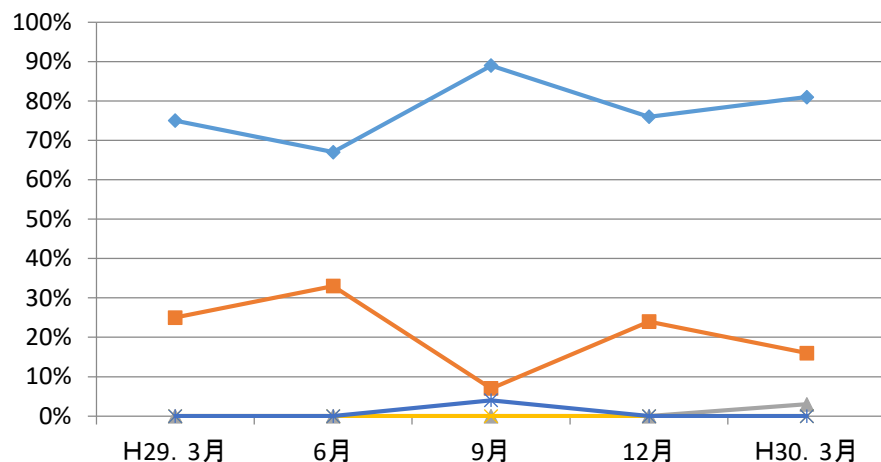


<参加者周知の工夫>

- 参加者には予め年間の予定を周知することで継続した参加を促すことができた。
- 事前アンケートをとることで、興味・関心がある分野に焦点を当て、勉強会が開催できた。
- 事前会議、事後アンケートを毎回行うことでコアメンバーの共通認識による運営を可能とした。

アンケート結果（H29.3月～H30.3月までの統計）

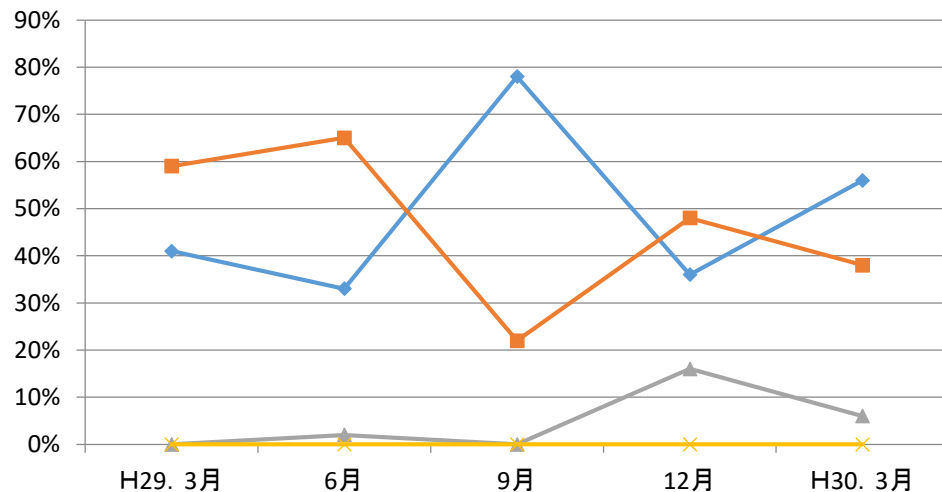
勉強会満足度



- 良かった
- まあ良かった
- ▲ あまり良くなかった
- ✕ 全く良くなかった
- ＊ 未記入

「あまり良くなかった」や「全く良くなかった」と回答した方はいなかった！

勉強会理解度



- よく分かった
- まあ分かった
- ▲ あまり分からなかった
- ✕ 全く分からなかった

制度や権利擁護の勉強会は理解度が低かったが、家族からの話は満足度も理解度も高かった。

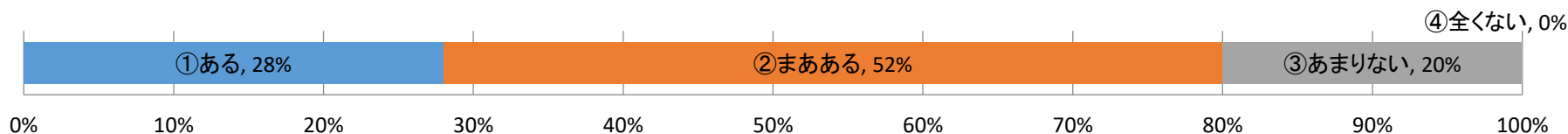
アンケート結果

12月14日第4回若年性認知症勉強会
実施後アンケート実施(回収率86%)

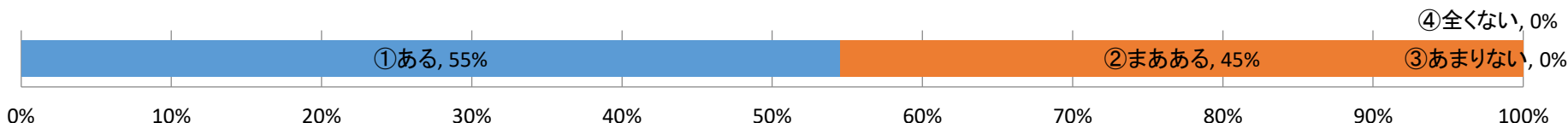
勉強会に参加する前から若年性認知症という病気を知っていますか？



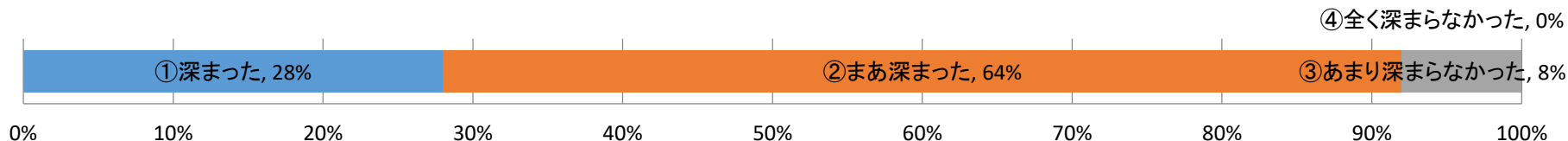
実際に若年性認知症の方を支援する際に不安な事がありますか？



勉強会に参加する事で不安は小さくなりますか？(上記質問で①②に回答した方)



勉強会を通して他機関や他分野の専門職との関係は深まりましたか？



勉強会前から若年性認知症を知っていた方は多かったが、支援については多くの専門職が不安を抱えている現状が分かった。主な不安としては、「**病気の受容や進行に合わせた支援が出来るか**」や「**知識不足**」といった意見が多く聞かれた。不安を抱えていると回答した全員が、勉強会に参加する事で不安が小さくなると回答した。他機関との関わりも勉強会を通じて深まったと回答した方(①②)が全体の9割にも上った。

参加者の声

職種連携が必要になる中で自分とは異なる視点からのアプローチが聞けて良かった。

繋ぐ先が分からない。

上手く繋がれるか不安。

介護サービス以外にも目がいくようになった。

一つの機関でのみ解決できるケースはとても少ないなあと感じています。様々な機関が連携して多方面からアプローチする事が大切だと思います。

参加者の多くが他職種連携の必要性について話が上がった。不安な部分があると回答した専門職は多かったが、その全員が勉強会を続ける事で支援する際の不安軽減に繋がると回答した。



今後は、制度に当てはめるのではなく、若年性認知症のご本人やご家族の意見を取り入れながら必要な資源を他職種協働で構築し、ケース検討や勉強会を通じてネットワークの輪や支援におけるスキル向上を目指していく事とした。

平成30年度の取り組み

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
当事者や家族と意見交換会	26日 本人2名 家族4名		19日 本人2名 家族2名								5日 本人1名 家族1名 (臨時)		
専門職との検討会	第5回目の勉強会を通して協力者を募り、本人や家族の声を検討			26日 検討会 26名	17日 コアメンバーとの打ち合わせ 5名		19日 勉強会 42名 (社会資源について)		3日 検討会 21名	27日 コアメンバーとの打ち合わせ 8名		22日 勉強会 49名 (就労について)	25日 ケアパス作成に向けた会議 14名

本人や家族の声を聞いて分かったこと

診断を受けた時は信じられない気持ちだった

夫と一緒にでは話せない事もある

これから自分がどうになってしまうのか知りたいし、不安

自分が自分でなくなるのが分かる

認知症カフェは入りづらい

本人同士・家族同士が繋がりのもてる場所があると良い

最初、どこに相談したら良いか分からなかった。

24時間本人と一緒にいないと本人が不安になってしまう

病院の先生に相談するのは敷居が高い

本人がいると話をしづらい

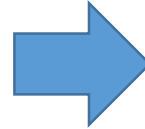
話の中で赤提灯の様な場所なら行ってみたいとの声上がる

- 相談できる場所（周知も含む）
- 本人や家族同士が交流できる居場所
- 本人や家族が気持ちを吐露できる場所

専門職との検討結果

①相談先の周知

相談先のチラシを精神科病院を
中心に設置



若年性認知症に特化
したケアパス作成へ

②本人や家族同士が交流できる場

(若年性認知症当事者・家族の為のカフェ)

・相談機能

病気、制度、お金、就労、居場所等の
相談に乗れる専門職を配置

・本人や家族同士の交流の場

思いの共有や精神的負担感軽減



若年性認知症の方や
その家族の為の認知
症カフェ(赤提灯たか
ろば)開催へ

③多職種とのネットワーク構築

年2回の勉強会を継続。顔の見える関係作りを継続的に持つ。

H31. 3/25 若年性認知症に特化したケアパス作成会議を開催 (14名参加)

行政1名・認知症疾患医療センター4名・精神科病院PSW3名・障害者就業・生活支援センター1名・障がい者基幹相談支援センター1名・若年性認知症コーディネーター1名・認知症地域支援推進員3名

①各機関からの支援状況確認

②初期での困りごとを優先順位をつけて整理

- ・経済状況(傷病手当、年金等)
- ・就労問題、企業の理解
- ・相談する場所がない。
- ・鬱の状態で確認できると良い。
- ・若い内は高齢のサービスは利用したくない。
- ・なぜ若年性認知症だけ別に扱うのか？
他の精神疾患の方が利用する障害福祉サービスと変わらないが・・・



空白の期間にいたAさんのような方を早期に相談機関に繋がるようにしていく事を確認。病院によって温度差がある。

ケアパスの内容は・・・

①相談場所の情報

②経済的支援

- ・就労
- ・金銭的問題

③社会参加

- ・居場所

配布先は、病院、産業医、労働局等を検討

“赤提灯たかろば”の開催したが・・

日程	平成30年11月2日(金)
時間	18:00～20:00
場所	高齢者施設コミュニティスペース
参加者	22名 本人3名 家族2名 専門職15名(PSW、OT、CM 看護師、薬剤師、行政、障害等) 施設入所者1名
内容	相談対応 お好み焼き作り



プレオープンでの開催だった為、大々的には周知をしなかった。その為、本人や家族の参加は少なかった。反対に専門職の参加が多くなってしまった。しかし、薬剤師やケアマネ等に家族が相談したり、本人がお好み焼き作りを手伝ってくれた。和やかな雰囲気だった。次回に繋がる開催とはならなかった。専門職の人数調整や内容については検討していく必要がある。

今後の活動・取り組みの方向性

- ①若年性認知症に特化したケアパス

原案作成後、会議開催予定。病院PSWが実際に当事者や家族に見せて、感想をもらう事となっている。定期的に専門職と打ち合わせを重ねていく予定。

- ②相談できる場と本人や家族の交流を兼ねた居場所の定期開催

埼玉県鴻巣市の当事者の集いの場を推進員で見学(R1. 5/9)

(事例集作成委員会で知り合った推進員にお願いした！！)

実施に向けて、内容や専門職の協力体制を再検討していく。

- ③多職種とのネットワーク構築

認知症疾患医療センター医師が「自分にも何か出来ないか」と勉強会への協力体制あり。R1. 9月に医師による病気についての勉強会依頼済。

認知症地域支援推進員の皆様へ

- 多職種とのネットワーク構築には、多職種に連携の必要性を伝えていく事が重要。その為には、課題を明確化し、それを言語化する力が必要。
- 自分の周囲を見渡してみると、他分野でも自分と同じような課題を抱える専門職がいる。認知症地域支援推進員だけで様々な施策を展開していく事は不可能。

協力者を増やしていく過程がネットワークを広げて行く事に繋がっている。
今日、研修会に集まった推進員の仲間も協力者になってくれるはず！！

～ご静聴ありがとうございました～

